



参加全女性による校歌斎唱(平成3年度総会)



会長
稻葉 誠治

(中37回)

今年、段戸会が記念すべき二十回目を迎えることになりました。会員の皆様と共に、衷心よりお慶び申し上げたいと存じます。

会報創刊の折にも触れましたが

二先生 (中26回) は、さぞご苦労なさったと思われます。参加者は三十八名、お年寄の先輩が多くつたようになりますが、私もいました。しかし、現在ご参加

頂く会員の数は百名を越し、約三分の一が女性会員で占められますので、会場は花やいたムードで包まれます。

翌年は休会、二回

目は昭和四十九年日

比谷公園の松本樓で

開かれました。

昭和五十年の三回

から八回まで平河町

の松屋サロン、九回

から十四回までは虎

ノ門の東京農林年金

会館で開催されました。この両会場には、

ご勤務の関係で強い

関わりを持っておら

れましたので、長年

にわたり何かとご

榎春夫氏 (中40回) が

ご勤務の関係で強い

関わりを持つておら

れましたので、長年

にわたり何かとご

榎春夫氏 (中40回) が

恒沙塵数



杉浦 弘

先日、仲間との歌会にへみづからを罵る種はご和讃の恒沙塵数を超ゆるなるべく」という一首を出したところ、だれひとり採ってくれず、訳のわからぬひとり合点します。

岡高・首都そして私



石川 幸男

この癖は、教職を退いてからいつそうひどくなりました。老来、とかく回想に浸ることが多いのですが、この頃の物忘れや失敗の件もあるものの、大部分は四十年ほどの教職の間のこと、殊にその前で責を果たさせて頂きます。

私が初めて東京へ行ったのは、昭和二十六年教師四年目の秋で、高校四回卒業生の修学旅行でした。

箱根・東京・日光の旅で、首都との出会いの感激よりも、初めて担任した元気溢れる諸君達から目が離せなかつたことが、懐かしく甦ります。

以後三十余年、出張や用事で幾度も首都を訪れましたが、嬉しかったのは昭和五十八年、首都圏段戸会にお招き頂いたときです。

昭和二十四年、岡崎高校へ転任が決まったとき父が大変喜び、自分の二中時代を語つてくれました。私は女学校からの転任でしたので下足のまま廊下を闊歩するバンカラ風に驚き、そして担当科目の化学では、完全選択制のため、初めて学習する一年生と、既に旧制中学時、殆ど学習済の三年生が混ざった授業で、実験室も無く苦勞は大変、毎日登る長い坂道は、重い足どりになりました。

授業は月曜から金曜まで、土曜は学級や生徒会活動で、いわゆる

ぎぬ、と散々の批評でした。わたくしは、実にしばしば「オマエハバカ」などと呴く癖があります。ぼそつというのではなく、声にして鋭く罵倒するのです。時々耳の遠くなつた妻が聞きとがめます。が、もちろん妻を叱つてているのなく、自分で自分を罵つているのです。

この癖は、教職を退いてからいつそうひどくなりました。老来、とかく回想に浸ることが多いのですが、この頃の物忘れや失敗の件もあるものの、大部分は四十年ほどの教職の間のこと、殊にその前に尽きました。宿舎は龍城館で、親身のお世話を頂きましたが、今も本郷の東大近くに健在と思います。

た四回・八回・十二回卒業生の皆さんも大勢出席され、懐旧話に花が咲き、私にも久し振りに私の岡高十一年が還つて來ました。

昭和二十四年、岡崎高校へ転任が決まったとき父が大変喜び、自分の二中時代を語つてくれました。私は女学校からの転任でしたので下足のまま廊下を闊歩するバンカラ風に驚き、そして担当科目の化学では、完全選択制のため、初めて学習する一年生と、既に旧制中学時、殆ど学習済の三年生が混ざった授業で、実験室も無く苦労は大変、毎日登る長い坂道は、重い足どりになりました。

岡高は、私を教師として育ててくれた母なる学校であります。

蓋世の英雄が開いた首都に、段戸山上の火を翳して、意氣昂き首

段戸会二十周年おめでとうござります。「総会へのお招き有難く拝受しました。当日、町内会の行事と重なり役目上抜けられず、誠に残念ながら欠席させて頂きます」と八月に返信したところ、木村博士さんから間髪を入れず、会報へ寄稿のお話がきました。懐かしさのあまり、深く考えずにお引受けしたこと後悔しつつ、拙文を以つ

半の無知、無反省であつた岡中・岡高時代の苦い思い出であります。それが恩師、同僚、生徒にかかるとすると、どうしても苦汁に満ちた回想となり、自己罵倒をもつてけりをつけるということになります。しかも苦い思い出の数の多いこと、恒沙塵数、ガンジス川の砂の数を超えるほどに、わたくしには思えるのです。この一首、いくらかそんな思いが出てはいないでしょうか。

同級会などは欠席したりしますが、気の向いた時は小旅行に出かけます。先日も知人に連れられては、俳句になりません。

先般、安城生れの文人石川丈山の書翰を読んでおりましたら「麻姑ははじめばかりのわたくしでは教師面そのままであります」とおどろきがあるのですが、これでは教師面そのままであります。

(中学35回卒)

姑ヲヤトヒテ痒キトコロヲカクニ似たり」という句にぶつかりました。『孫の手』ではないかと辞書をひいてみますと、麻姑は中国の伝説の仙女で、爪が長く、これで痒た。孫の手はかはゆき孫の手にはあらで爪長かりし仙女麻姑の手

戦時中の岡中生



榎 春夫
(中40回)

私達岡崎中学四十回卒業生は、満州事変の最中、昭和九年四月に入学し、日華事変中の昭和十四年三月に卒業しました。



上田 實
(高7回)

始まり、大学では学年短縮、繰上げ卒業という措置がとられて、仮卒業証書を戴いて学徒動員され、敗戦色濃厚な戦場へと駆り立てられていった年代です。戦争から帰つても、日本全土焼野ヶ原で働く職場もなく、巷には復員軍人という名の失業者が溢れていました。

そういう状態で、我々の学生生活は最も甚大な戦争被害を被つたものでした。

「非常時」という言葉が常套語となつてゐたこのよくな過酷な時代

ではありましたが、若者たちの活力や、その未来は何者にも奪われるものではありませんでした。我々の同級生は一人の脱落者もなく、みな揃つて巣立つていきました。

不幸にして戦争の直接の犠牲者が何人か出ましたが、生き残つた者はみなそれぞれに進路を求め、志をのばしてきました。その意味で私は我々の学生生活も、それなりに貴重な体験であったと思ひ返しています。

例えは次のようなこともあります。私は剣道部にいましたが、

入場行進の主役が決して大国ではなく、自国の政情に不安を抱えながらも、堂々と胸を張り笑顔で行進するクロアチア、スロベニア、ギリギリに出場可能になつたボスニア・ヘルツエゴビナ、32年ぶりの南アフリカなどへの温かい拍手、歓声こそが、オリンピックの発する“平和”というメッセージだったと思う。

ボールゲームは野球と男女バレーボールだけが出席できるが、バレーボールも日本がメダルを獲得した頃と現在ではルールも参加する国地図も変つて、容易にはメダルに手が届かなくなつてしまつた。だが、優勝候補の筆頭だったイタリア、キューバ、三連覇を狙うアメリカも、決勝戦のコートに姿はなかつた。それほど混戦模様といえる状況で、チャンスがないといえないものである。

例年、本会の運営基金としてご寄付をお願いしておりますが、とつてかけがえのない貴重なものとして今に残つています。こうした体験を得たことは、私に従つて、五年生の秋がきたら引退して受験勉強に専念するといふわけにはいかず、卒業のぎりぎりまで道場に通いつづけました。自分的好きでしたことではありますが、正規の授業のときは代理の先生がみえていましたが、剣道部の運営については殆ど生徒の自主運営に任された形になつてしましました。当時はキャブテンでしたから、金子先生の御付託におこたえられてしましました(後に戦死)。

正規の授業のときは代理の先生がみえていましたが、剣道部の運営については殆ど生徒の自主運営に任された形になつてしましました。当時はキャブテンでしたから、金子先生の御付託におこたえられてしましました(後に戦死)。

剣道の先生で、高等師範出の偉丈夫六段の腕前を持つ金子先生と申します。我々の同級生は一人の脱落者もなく、みな揃つて巣立つていきました。毎日の放課後の練習はもちろん、暑中稽古や寒稽古、毎年参加していた八

高主催の公式戦、師範学校や商業学校との練習試合など、先生が在任中おやりになつたことを踏襲しました。

こんな風でしたから、恒例に夫六段の腕前を持つ金子先生と一緒に練習をしたりました。毎日の放課後の練習はもちろん、暑中稽古や寒稽古、毎年参加していた八

高主催の公式戦、師範学校や商業

バルセロナ隨想

上田 實
(高7回)

この夏、猛暑の日本を離れて、熱いスポーツの戦いが繰り広げられたバルセロナで二十三日間を過した。私が大学でバレーボールを指導してきた二十五年間に、モントリオール一名、ロス一名、ソウル四名と出場する教え子達も増え、今回は女子監督の米田、選手大竹、青山、南の四名が代表に選ばれた。表向きはJOC強化スタッフコーチ、JVA支援役員だが、ソウルについて一度目のオリ

ンピック応援である。

開会式の五日前に現地入りしたが、テロに対する警備は嚴重で、各施設も完成しておらず、工事の音も慌しかつた。しかし、競技が始まると頃には会場も整い、警備も次第に緩やかになつてきたようになつた。開会式での構成や大会中の運営を見ても、当初想像していた以上に働き者で、有能な国民であることを認識した。

開会式ではマスゲームやオペラ歌手の喉に魅せられたが、何といつても、パラリンピック(身障者五輪の銅メダリストのアーチェリー選手アントニオ・レボジョヨさん)はたくさん感動を与えてくれた。カール・ルイスの走り幅跳

トルの聖火台に向けて矢を放ち点火したのは圧巻だった。割れんばかりの拍手がスタジアムに響いた。

ボールゲームは野球と男女バレーボールだけが出席できるが、バレーボールも日本がメダルを獲得した頃と現在ではルールも参加する国地図も変つて、容易にはメダルに手が届かなくなつてしまつた。だが、優勝候補の筆頭だったイタリア、キューバ、三連覇を狙うアメリカも、決勝戦のコートに姿はなかつた。それほど混戦模様といえる状況で、チャンスがないといえないものである。

例年、本会の運営基金としてご寄付をお願いしておりますが、平成三年度は別紙会計報告通り、多額の基金が集まりました。これもひとえに会員の皆さまのご協力の賜物であり、厚くお礼申し上げます。

会の円滑な運営を図るため、本年度も引き続き「一口壱千円以上」の寄付を仰ぎたく、なにとぞ協力のほどお願い申し上げます。

払い込みについては、同封の振替用紙か当日受付にご持参頂ければ幸いです。

平成二年度〈第十九回〉 段戸会総会報告

平成三年度首都圈段戸会は、菊
花かおる十一月二日(土)午後三時
より、東京郵便貯金会館・瑞雲の
間において、一二四名という多数

の参加者を得て開催されました。稻葉会長の心温まる挨拶に始まり、畠部同窓会長より本部同窓会の活動報告、続いて日高校長先生から現在の学校の様子、進学状況の説明ならびに各クラブの目ざましい活動のお話しを伺い、同窓の身として、優秀な後輩達の活躍に全員から拍手の嵐が起りました。

今年は小金潔先生(英語)と岩田幸子先生(家政)の両恩師をお招きしておりましたが、小金先生は公



務ご多忙のためご出席いただけず、この時代の先生のご出席が少ないこともあって、教え子の皆さまに

は、非常に残念なことであつたと思います。岩田先生からは長いこと教鞭を取られた間の、色々と思ひ出深いエピソードを交えた感動のお話しがありました。

この間各人飲みながら、多感な青春の日々あるいは苦しい時代の懐旧談がとびかい、会は楽しく和やかに進行しました。特に、本会

総会出席者

—平成三年度—

(高7回) 岩本昭夫 小野善邦
上田 實 小六要子 長瀬けい子
河井 學

関根茂
成瀬徹
岩崎直子
鶴田文男
吹抜洋司
小林のりこ

は
千円でお分けしますが、
左記あて現金同封の上お申込
み下さい。

歓談も盛り上ったところで恒例の福引抽選があり、今回も会長が寄贈し近藤氏がサインしたボーレ

ドによるエールで締め、楽しい窓会の一日の幕を閉じました。

ます。
なお、当日ご都合がつかず
欠席される方で、記念テレ

の数日前に、日本ハム・ファイターズの監督を引退された中44回近藤貞紀氏から、プロ野球界最長在籍

をはじめ、盛沢山のすばらしい賞品の数々が、当日幸運であつた方々に当りました。

お知らせ

総会出席者		平成三年度		(中23回)		谷川要司	
(高6回)		(中37回)		伊豆原駒吉		稲葉誠治	
有馬弘政		(中38回)		梅田八郎		深津坂夫	
杉浦郁子		(中40回)		伊藤英雄		小六英介	
平野右		(中44回)		深津坂夫		上田實	
(高5回)		(中45回)		牧太刀郎		稻葉誠治	
萩野康雄		(中47回)		神谷和郎		小六英介	
太田久		(中50回)		柴田祐作		上田實	
富国重道		(高1回)		安藤紫郎		小六英介	
成瀬英俊		(高2回)		太刀郎		小六英介	
林栄一		(高3回)		豊田俊雄		小六英介	
馬渕弘子		(高4回)		関場一恵		小六英介	
岩月成好		(高5回)		石川勝美		小六英介	
(高12回)		(高6回)		近藤貞雄		小六英介	
伊藤秀一		(高7回)		榎本春夫		小六英介	
林泰子		(高8回)		深田弘		小六英介	
高島和江		(高9回)		榎本春夫		小六英介	
青木かゑ子		(高10回)		高橋里恵子		小六英介	
清水淳		(高11回)		高橋里恵子		小六英介	
中根淳		(高12回)		高橋里恵子		小六英介	
川西基裕		(高13回)		高橋里恵子		小六英介	
(高31回)		(高14回)		高橋里恵子		小六英介	
志村浩		(高15回)		高橋里恵子		小六英介	
(高27回)		(高16回)		高橋里恵子		小六英介	
長尾敦子		(高17回)		高橋里恵子		小六英介	
(高20回)		(高18回)		高橋里恵子		小六英介	
志賀富成		(高19回)		高橋里恵子		小六英介	
(高22回)		(高20回)		高橋里恵子		小六英介	
佐伯寛子		(高21回)		高橋里恵子		小六英介	
豊田キミイ		(高22回)		高橋里恵子		小六英介	
中畑宏行		(高23回)		高橋里恵子		小六英介	
横井昭親		(高24回)		高橋里恵子		小六英介	
吉川則之		(高25回)		高橋里恵子		小六英介	
野沢紀子		(高26回)		高橋里恵子		小六英介	
水谷鏡子		(高27回)		高橋里恵子		小六英介	
立花陽子		(高28回)		高橋里恵子		小六英介	
柴田一男		(高29回)		高橋里恵子		小六英介	
河井学		(高30回)		高橋里恵子		小六英介	
岩崎直子		(高31回)		高橋里恵子		小六英介	
近藤祥子		(高32回)		高橋里恵子		小六英介	
神道千秋		(高33回)		高橋里恵子		小六英介	
古井敢		(高34回)		高橋里恵子		小六英介	
森美鎮子		(高35回)		高橋里恵子		小六英介	
長田正純		(高36回)		高橋里恵子		小六英介	
立花陽子		(高37回)		高橋里恵子		小六英介	
柴田一男		(高38回)		高橋里恵子		小六英介	
平野源吾		(高39回)		高橋里恵子		小六英介	
鶴田文男		(高40回)		高橋里恵子		小六英介	
吹抜洋司		(高41回)		高橋里恵子		小六英介	
小林のりよ		(高42回)		高橋里恵子		小六英介	
茂根徹		(高43回)		高橋里恵子		小六英介	
関根茂		(高44回)		高橋里恵子		小六英介	
鶴田文男		(高45回)		高橋里恵子		小六英介	
吹抜洋司		(高46回)		高橋里恵子		小六英介	
小林のりよ		(高47回)		高橋里恵子		小六英介	
立花陽子		(高48回)		高橋里恵子		小六英介	
柴田一男		(高49回)		高橋里恵子		小六英介	
平野源吾		(高50回)		高橋里恵子		小六英介	
鶴田文男		(高51回)		高橋里恵子		小六英介	
吹抜洋司		(高52回)		高橋里恵子		小六英介	
小林のりよ		(高53回)		高橋里恵子		小六英介	
茂根徹		(高54回)		高橋里恵子		小六英介	
鶴田文男		(高55回)		高橋里恵子		小六英介	
吹抜洋司		(高56回)		高橋里恵子		小六英介	
小林のりよ		(高57回)		高橋里恵子		小六英介	
立花陽子		(高58回)		高橋里恵子		小六英介	
柴田一男		(高59回)		高橋里恵子		小六英介	
平野源吾		(高60回)		高橋里恵子		小六英介	
鶴田文男		(高61回)		高橋里恵子		小六英介	
吹抜洋司		(高62回)		高橋里恵子		小六英介	
小林のりよ		(高63回)		高橋里恵子		小六英介	
茂根徹		(高64回)		高橋里恵子		小六英介	
鶴田文男		(高65回)		高橋里恵子		小六英介	
吹抜洋司		(高66回)		高橋里恵子		小六英介	
小林のりよ		(高67回)		高橋里恵子		小六英介	
立花陽子		(高68回)		高橋里恵子		小六英介	
柴田一男		(高69回)		高橋里恵子		小六英介	
平野源吾		(高70回)		高橋里恵子		小六英介	

編集後記

今年も苦勞の連続でしたがなんとか締切に間に合うことができました。本号から、前年度の総会の報告と出席者名を掲載することになりました。お知り合いの方がたくさん参加されているのではないでしょうか。



第20回総会記念
1992.11.7
首都圏段員会

(会報編集事務局)